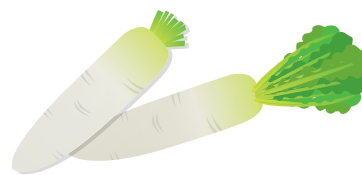


# 家庭菜園相談室

今月の  
テーマ

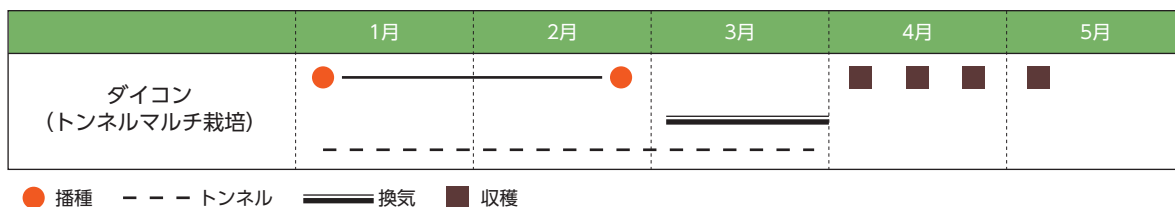
## ダイコンのトンネル＋ マルチ栽培に挑戦！



家庭菜園ではどうしても冬から早春にかけて採れる野菜が少ないです。ですが、ダイコンなどの根菜類やホウレンソウなどの葉菜類は、ビニールトンネルを使えば比較的簡単に栽培できます。

ダイコンは通常、温度が10℃以下になると花芽ができ、暖かくなって日が長くなるとその花芽が大きくなって「トウ立ち(＝抽台)」します。しかし、ビニールトンネルを設置して苗を保温すると、トンネル内は夜間が10℃以下になっても、昼間は気温が高くなるため、夜間の低温が昼間の高温で帳消しになり花芽ができません。このように、ダイコンでは22～23℃が4時間以上続くことで、「トウ立ち」しなくなります。

図1 作型目安



### おすすめ 品種

- 春の守(サカタのタネ)……極晩抽性で一般地、暖地の春どりトンネル栽培が可能。肥大性に優れ、肌がきれいで高品質。
- つや風(タキイ種苗)……晩抽性で低温肥大性に優れる。病気に強く作りやすい品種。
- 大師(タキイ種苗)……極晩抽性でやや短根ですが、トンネル栽培に向いている総太り型の春ダイコン。

**畑の準備**：種を播く2～3週間前に完熟堆肥2<sup>kg</sup>/㎡、苦土石灰100<sup>g</sup>/㎡を施してよく耕します。1週間前には化成肥料(畑作名人 N-P-K=13-13-13など)100<sup>g</sup>/㎡を施します。

**種まき**：幅60～70<sup>cm</sup>、高さ10<sup>cm</sup>程の畝に黒マルチを掛けます。黒マルチを張ると地温が高まるため、発芽が良くなるとともに、雑草が繁茂するのを抑えることができます。

マルチに30<sup>cm</sup>間隔の穴をあけ、タネを播く前日に水をたっぷり掛けて水分を確保しておきます。

穴を開けたところにピンの底などでクボミをつけて、1カ所に4～5粒の種を播き、1<sup>cm</sup>ほど土をかけて、手のひらで軽く押さええます。

畝に支柱(1.5～1.8<sup>m</sup>位)を半円形になるように60<sup>cm</sup>間隔で差し込んで(地中に30<sup>cm</sup>程差し込む)、骨組みを作り、ビニールやポリエチレンのフィルムで覆います。

フィルムは隙間の無いようにピンと張って、土をフィルムの裾に盛りしっかりと固定します。

風の無い日に二人で作業するとよいでしょう。(両端に分かれて)

風でフィルムが飛ばされないように、さらにトンネルの上から支柱やひもで押さえます。(バタつかないように)

**間引き**：発芽が揃ったら1回目の間引きは、本葉1～2枚までに行います。2回目の間引きは本葉3～4枚の頃に行い、1カ所に2本残します。3回目は本葉6～7枚の頃しっかりとした株を1本にします。

**追肥**：3回目の間引きをした後、追肥をします。化成肥料(畑作名人などN-P-K=13-13-13)30～50<sup>g</sup>/㎡を株の周りにまきます。

**換気**：3月頃になるとトンネル内が30℃を超えるため換気をします。はじめは日中にトンネルの裾を上げ、夕方閉めるようにします。または、トンネルの上部に直径5<sup>cm</sup>の穴を開ける方法でも構いません。換気が早すぎると「トウ立ち」の危険があり、遅すぎると高温障害を起こすので、時期や穴の開け具合に注意が必要です。4月上旬にはビニールをはがします。

**収穫**：収穫は、首の太さが直径8<sup>mm</sup>程度、重さ1<sup>kg</sup>くらいが収穫適期です。早播きしたものは根が短めになりますが、遅く播いたものは長くなります。

家庭菜園に関する相談は、営農経済センターのTAC(タック)までご連絡ください。